



鳥取県農地・水・環境保全協議会



第75号

令和6年1月

中国四国農政局長表彰 最優秀賞受賞について

令和5年度中国四国農政局長表彰において、「会下部落地域資源・環境保全プロジェクト」（鳥取市気高町）は、本県では昨年度の出上農地・水保全活動組織（琴浦町）に続いて、2年連続となる最優秀賞を受賞されました。

○組織の概要 【会下部落地域資源・環境保全プロジェクト】

本組織の存する集落は、近くには弥生時代としては県内最大級の建物跡が発掘されており、また、古代山陰道（会下坂）のルート上にあったと検証されるなど、古代から営みが盛んであったと推論されています。その後、およそ430年前の室町時代の末に鹿野城主の亀井氏により農地開発され、同時に農業用水確保のため「大堤池」が作られた歴史的な背景があります。

平成19年度に本組織を立ち上げ、「大堤池」を中心とした農村文化の伝統行事や景観形成活動により、地域の活性化に取り組むとともに、鳥獣被害防止対策や田んぼダム、さらに長寿命化の活動について、集落内の青年部や地元大学生と連携して取り組むなど、多様な人材が参画した活動を行っています。



○主な活動内容

《「大堤池」を中心とした農村文化の伝統行事や景観形成活動》

毎年秋には、「大堤池」の水を抜き、「ウグイ（魚伏籠）」といわれる竹で編んだ筒状の漁具を使った「ウグイ突き漁」という400年以上受け継がれている伝統漁法を伝承しており、ため池の管理と農村文化の継承を地域一体となって取り組んでいます。

また、他県への視察をきっかけに、芝桜による景観形成活動に取り組んでいます。

女性役員が中心となり、会下独自の栽培方法により、「大堤池」や農道法面などのもとより、集落や逢坂地区にも植栽が広がっています。植栽された芝桜は、春になると可憐に咲き誇り、地区内外から多くの方が見学に訪れており、遠くに鷲峰山を望む癒しの農村空間として親しまれています。

《多様な人材が参画した活動》

ウグイ突き漁、景観形成活動、草刈り、水路清掃、鳥獣害防護柵の設置などの活動に大学生などがボランティアとして参加するとともに、地元小学校からも郷土学習として参加しています。また、地元青年団に所属する若い世代も活動組織の指導の下、農業用施設の補修活動を実施しています。



あさぼらけの会下



伝統漁法のウグイ突き漁



芝桜での景観形成活動



地域一体となった鳥獣被害対策

農業・農村の多面的機能の持続的発揮に向けた全国シンポジウムに参加して

持続的な地域づくりに向けた農村 RMO の取り組みや、教育機関など地域内外の関係者との連携、さらに農業遺産や地域資源を活用した地域活性化等について知見を深め、多面的機能支払に係る活動及び活動への理解を図る目的で、12月6日・7日の二日間にわたって東京都千代田区「砂防会館別館」に於いて700名(含むWeb参加者)の参加で開催されました。(鳥取県からの現地参加は2名)

初日(第1部)、開会挨拶後の講演①では、山形県農村プロデューサーの高橋信博氏から「地域に消えない火を灯せ」～住民のやる気をひきだす力～と題して、人口減少や住民コミュニティが衰退する昨今、いま必要なのは住民参加の地域づくりであり、地域づくりの人材育成に向けた研修(農村プロデューサー養成講座)について、熱いお話がありました。

講演②では、石川県の鉦打ふるさとづくり協議会の村田正明氏から「嫁に来たくなる里づくり」と題して、農地保全対策や生活支援・地域活動対策の具体例や今後の検討課題が報告されました。

続いての講演③では、宮城県大崎市世界農業遺産推進課の安部氏から「大崎耕土の巧みな水管理と持続可能な水田農業」と題して、「ササニシキ」「ひとめぼれ」といった一流の品種が生み出された大崎は、まさにお米の聖地であり、その背景には自然を生かした水管理の徹底と人の知恵、そして地域のつながりの大切さがあるとお話でした。

初日終了後の情報交換会(103名)では、全国土地改良事業団体連合会(役員)の挨拶の中で、『2024年度の農業基本法改正に伴い今後の農政の展開方向が示されますが、是非とも基本法の中に、皆さんが頑張っておられる多面的機能支払制度の内容(文言)を入れていただきたい』と願いを込められてお話しされました。

次の日(第2部)、講演①では「地域の教育機関との連携実例」と題して沖縄県糸満市からの報告があり、琉球大学との連携をはじめ地元小学校への出前講座や調査など多岐にわたって「農業を学ぶ」ことに重点を置いた取組で、まさに教育機関との連携でした。講演②では、群馬県美野原広域協定から「吾妻中央高校と連携した水路の保全」と題して報告があり、地域内の農業施設を管理する美野原土地改良区(209ha)が9年前から測量技術の高い地元高校に空撮の依頼をして、ドローンを活用した水路図の作成プロジェクトに取り組まれていました。組織の富沢事務局長から、「何年かかって良いから」との言葉に支えられ高校生は挑戦を決意しました。測量総延長34kmとその労力と技術は計り知れないものがあったと思われ、まさに教育機関との素晴らしい連携で感動しました。

改めて、今回のシンポジウムは、多面的機能支払制度の活動組織と教育機関等との連携が更に深まることを通じて、農業・農村を円滑に次世代に引き継ぐため、関係者に求められる視点や役割などについて、会場の参加者と共に考えさせられた研修会であったと思います。

最後に、出上農地・水保全活動組織のキャッチフレーズは「次世代につなげ明るい地域を目指して」ですが、今後とも関係機関と連携を重ね、学び(研修会等)を通して取組みや活動を次世代につなげたいと考えています。

(記 出上農地・水保全活動組織 事務局長 西村敦郎)



全国シンポジウム



筆者

多面に関するご質問・お尋ね等は各市町村担当者又は下記までお願いします。

| | 問 合 先 | 電話番号 |
|-----|--------------------|--------------|
| 東 部 | 鳥取県農地・水保全課 | 0857-26-7334 |
| | 鳥取県東部農林事務所地域整備課 | 0857-20-3570 |
| | 水土里ネットとっとり(協議会事務局) | 0857-38-9500 |
| 中 部 | 鳥取県中部総合事務所農林局地域整備課 | 0858-23-3171 |
| | 水土里ネットとっとり倉吉事務所 | 0858-47-0055 |
| 西 部 | 鳥取県西部総合事務所農林局地域整備課 | 0859-31-9665 |
| | 水土里ネットとっとり米子事務所 | 0859-32-9710 |



高めよう

地域協働の力!